健康から生まれる笑顔、つながる未来。
特定非営利活動法人 ISAPH（アイサップ）
International Support and Partnership for Health

特集

マラウイ
『風に立つライオン』にかける思い
～母子栄養改善の新たなフェーズへ～

News Letter

2024年
7月30日発行
第48号

楽曲『風に立つライオン』への思いと、風に立つライオン基金のご支援による新事業

ISAPHマラウイ　**山本　作真**

2008年、協力隊員当時の山本。住んでいた村周辺を臨む

公益財団法人風に立つライオン基金①からご支援いただき、４月より新たに「『自分の健康は自分で守る』住民による栄養改善活動の自立支援事業」を開始しました。

皆様は、『風に立つライオン』という曲をご存知でしょうか。シンガーソングライターのさだまさしさんが1987年に発表された、アフリカ・ケニアで活躍する日本人医師をモデルにした曲で、のちに**小説**②や**映画**③にもなりました。風に立つライオン基金は、この曲が元になって生まれた、国内外で活動する個人・団体への助成や顕彰、災害支援などを行う財団です。実はこの『風に立つライオン』、私が国際協力の道に進むきっかけになった、思い出の一曲でもあります。

出逢いはいつでも偶然の風の中④

この曲を初めて知ったのは**高校二年の秋**⑤に観たTV番組でした。一度聴いて強い衝撃を受け、直後に『さだまさしベスト』のCDを手に入れました。当時は将来にさしたる希望も持てずにいた時期で、多感な年頃であったためか、何度も繰り返し聴いては、その度にボロボロ泣いていました。映画やJ-POPで泣くようなことがほとんどない性格なので、我ながら驚きました。

それまで、遠いアフリカなんて**僕には何も関係ないことだと**⑥思っていたし、何か見聞きしても**明日になれば　忘れたふり**⑦をしていました。しかし、この曲を聴き、いつか必ずアフリカに行こうと心に決めたのでした。とは言え、当時は曲に出てきたような保健医療ではなく、大学で農学を学ぼうと考えていました。

それから６年が経ち、大学の卒業式の１週間後、青年海外協力隊（現・JICA海外協力隊）の一員として、アフリカ南東部の国、マラウイの土を踏んでいました。

懐しい風景に再びめぐり逢えた④

マラウイは国民の７割が農業に従事し、タバコ、紅茶、コーヒーなどを産出する農業国。**コーヒーは確かにうまい**⑧。しかし、産業としての農業生産は国内の栽培面積からするとごく一部。国民の大半を占める村人は自給のために家事の一環で畑仕事をしており、現金収入はほとんどない生活を営んでいます。

協力隊員としての２年間は、とても得難い経験でした。現地では少年院の職員として活動し、子どもたちの基礎的な生活力のため、野菜の栽培方法を教えていました。自分なりに**野菜を育てて　空と土とを愛するように**⑨、と懸命でしたが、任期満了で日本へ帰国した後になってからも「あの時にもっと、ああすれば良かったのではないか」と様々な思いが残りました。

国内での会社勤務などを経て、2017年に雪の聖母会聖マリア病院に入職。同グループ内のNPO法人ISAPHに出向する形で、マラウイ事務所に赴任しました。丸10年ぶりのアフリカ・マラウイでした。

チャンス　それは誰にも
チャンス　平等にきっと
チャンス　与えられるべきもの⑩

今度の職務は、母子の栄養改善。と言っても、マラウイの栄養事情は、**どこかの国で戦さが起きたとTVのNEWSが言う**⑪時に映し出される、“痩せこけた子どもたち”とは異なります。小児の４割近くが慢性的な栄養不足で、痩せではなく低身長が特徴です。これは脳などの神経系の発達にも支障をきたし、幼児期にこのハンデを背負うと、生涯にわたって影響を及ぼします。

---

① https://lion.or.jp
② 2013, 幻冬舎 , 著：さだまさし
③ 2015, 東宝 , 原作：さだまさし　監督：三池崇史
④『天までとどけ』より。以下、作詩・作曲：さだまさし
⑤『親父の一番長い日』より
⑥『遥かなるクリスマス』より
⑦『聖域～こすぎじゅんいちに捧ぐ～』より
⑧『パンプキン・パイとシナモン・ティー』より
⑨『大きな森の小さな伝説』より
⑩『チャンス』より
⑪『前夜（桃花鳥）』より

しかし、保護者に「栄養のあるものを食べさせて」と指導しても仕方がありません。食品を買うための現金も、村に流通する食べ物の種類も、圧倒的に不足しているのが現実でした。まして、“いま食べものを与える”だけでは解決しません。「自分の健康は自分で守る」ことができなければ、持続的な解決は望めないのです。しかも現地は、**そんな馬鹿げた話は今まで聞いたことがない**[12]と思わず口にしてしまうような、日本の常識とはかけ離れた社会。母子栄養以前に、様々な課題が折り重なっています。今なお「**俺より先に寝てはいけない　俺より後に起きてもいけない**[13]」を地で行くジェンダー格差。村で出会う人々の教育レベル。例えば、聡明でリーダーシップもあるけど文字が読めないおばあちゃんや、小学校中退ながら我が子の栄養についてどんどん質問してくれる若いお父さん。彼らが日本のような国で生まれ育ったら一体どんな人生を送ったのだろうかと考えることもあります。**けれど人を憐れみや同情で語れば　それは嘘になる**[14]のでしょう。それでも、私たちにできることはないのだろうか。

こうして、医療職からなる栄養改善事業の一員として、農業出身の人間が身を置くことになりました。着任から６年半、嬉しいことに、事業を実施した地域では大きな成果が表れました。村で栽培される作物の種類も増え、一部を売ったお金で肉や卵、牛乳も日常的に買えるようになりました。栽培や購入で選択肢に入るようになった、しかし人々には馴染みのない食材をどう食べるのか。これには、パンケーキやピザなど様々な料理を紹介し実習を行うことで評判になりました。また、乳幼児の食も変わりました。以前はトウモロコシの粉をお湯で溶いた、重湯のようなものでしたが、大豆や落花生の粉末、牛乳、卵などを入れた離乳食になりました。多くの保護者が「うちの子は食が細い」とこぼしていましたが、炒った大豆や落花生の香り豊かな離乳食は、子どもたちの食欲をそそり、よく食べてくれるようになりました。結果、子どもたちの食べている食材の種類が増え、発育状況も全国平均と比べてずいぶん良くなりました。

様々な栄養素を含む材料を入れた離乳食の調理実習

あなたが選んだのがこんなに小さな私の傘だなんて[15]

栄養改善の効果は上々でしたが、事業の実施地域は限られていました。一方、近年は村でもスマートフォンが普及し始め、村で閉じていた口コミの情報伝達が急速に様変わりしています。「実習に加えて、栄養改善が成功している地域の情報を発信すれば、他地域にも影響を広められるのでは」と構想を練り、風に立つライオン基金に説明したところ、大変ありがたいことにご支援いただける運びとなりました。これは個人的にも非常に光栄なことでした。ご連絡をいただいた日、マラウイの自宅の庭で夕陽を眺めながら『風に立つライオン』を聴いていると、高校生の頃と同じように泣いていました。

村の人々にもスマホが普及してきた

君の歌に出てくるライオンにはほど遠いけれど[16]

国際開発の主役は、現地の人々だと思います。自分自身はあくまで**主役を脇で支える味噌汁になりたい**[17]。しかし、このようなご支援を賜り、今回ばかりは個人的な気持ちが溢れ出てしまいました。心から**何でんかんでん　がんばらんば**[18]と襟を正す思いです。一曲との出会いから今日までの不思議な縁を、**偶然を装いながら奇跡はいつも近くに居る**[19]と感じつつ、ケニア・タンザニア国境、ヴィクトリア湖上空にて。

☜こちらで『風に立つライオン』の曲をお聴きいただけます。ぜひ聴いてみてください。

⑫『雨やどり』より
⑬『関白宣言』より
⑭『療養所』より
⑮『もうひとつの雨やどり』より
⑯『八ヶ岳に立つ野ウサギ』より
⑰『私は犬になりたい￥490』より
⑱『がんばらんば（長崎弁バージョン）』より
⑲『奇跡 ～大きな愛のように～』より

ラオスからの報告

新人スタッフ三浦と石塚所長の対談

＜入職後の印象＞

石塚：ラオスに来てからはまだ１カ月ですがISAPHで働いてみてどうですか？

三浦：事務所スタッフのサポートもあり毎日が充実し、濃くもあっという間でした。こちらでは、主に地域母子保健事業に従事し、母子保健サービスの利用率促進や栄養改善に努めます。現場での活動がとても楽しみです。

＜スケジュールと仕事内容＞

石塚：実際のお仕事の１日を教えてください。

三浦：郡保健局と保健センターの看護職に向けた研修会を実施したときの２日間について、スケジュールをお見せしながら紹介します。

6/12

9:00	事務所のあるターケークからサイブートンまで車で移動。雨季で道路がガタガタのため90kmの道のりに対して３時間かかりました。
12:00	昼食後、大自然の中を散歩しお昼ご飯を消化しました。
13:30	翌日の研修会に向けて、打ち合わせ。講義や演習をどのようにしたらわかりやすいか、予行演習しながら準備しました。
17:00	市場で夜ごはんを購入し、帰宅。

6/13

7:00	起床後、朝欠食（前日食べ過ぎのため）
8:00	会議室にて会場設営を行いました。
9:00	カウンターパートのニポップさんが開会式を実施。続いて研修の理解度を前後で評価するためのテストを実施しました。
10:00	講師のシンタラーさんが講義を実施。 私は進捗を確認し、参加者の疑問点、現場での課題は何か、理解につながっているかなどを把握しました。
11:00	グループに分かれて演習も行いました。 講義の内容に基づいて、熱心にグループワークしている姿を見ることができ、とても嬉しかったです。
12:00	最後に確認テストを行い、閉会式
14:00	講師と反省会を行った後、ターケークの事務所に向けて帰路につきました。

＜最後にメッセージ＞

石塚：支援者の皆様にメッセージをお願いします。

三浦：いつも応援ありがとうございます。カムアン県やサイブートン郡の職員より、「これからもぜひ活動を続け、他の村にも活動を広げてほしい」とお言葉を頂戴しています。ISAPHのこれまでの活動成果や、今後も継続発展していくことの土壌があることを再認識すると同時に、これらの活動は応援してくださっている皆さまの支援なしには成し得なかったことと感じています。ラオスの住民が自らの力で健康を守っていけるよう、持続可能な支援に努めていきます。今後とも応援よろしくお願いいたします。

事務局からの報告

Photo gallery

ラオス事務所スタッフ

大きくなったぞ！

ラオスの姉妹

笑顔で調理実習

母子と三浦専門家

マラウイの女の子の笑顔

Malawi & Lao PDR

マラウイ事務所スタッフ

今年も参加！
日帰りで行けるラオス！

ISAPH事務局　**村上　麻友子**

国内最大級のラオス関連イベント『ラオスフェスティバル2024』が、今年も5/25㈯･26㈰の２日間、代々木公園（東京都渋谷区）にて開催されました。ラオスで活動する私たちISAPHも活動紹介と国際協力への理解促進を目的に、昨年に引き続き参加させていただきました。

２日間とも快晴に恵まれた本フェスティバルには、美味しそうなラオス料理の屋台やラオスの雑貨店など、多くのラオス関連ブースが並び、来場者で賑わいました。民族舞踊やラオスの人気ミュージシャンのステージも大盛り上がりでした。中にはラオスという国をよく知らない方や、ラオスが抱える問題をご存じない方も多く、私たちの説明を聞き、「そんなことになっているとは知らなかった。ラオスのお母さんたちを支援したい！」「楽しいだけでなく、とても勉強になりました」と言ってくださる方もいらっしゃいました。

その他にも、ラオスについて楽しく知ってもらえるイベントとして企画した「ラオスクイズ」は元インターンのボランティアの協力もあり大盛況でした。

来年は日本とラオスの国交樹立70周年。このフェスティバルをきっかけに、ラオスへの友好や国際協力、そして私たちの活動の必要性について関心を持ってくださる方が増えてくれると嬉しいです。来年はぜひ、皆さんも日帰りでラオスを体験してみてください！

会場の様子

ISAPHブースにもたくさんのお客様が来てくれました

祝！ISAPH20周年!!

ISAPH事務局　**村上　麻友子**

2004年に設立され、これまでラオスとマラウイにて地域母子保健活動を行ってきたISAPHは、今年の７月で20周年を迎えます。これまでに多くの方々に支えられてきたISAPHの活動は、両国で母子の健康状態の改善に対して、着実に成果を上げています。これもひとえにISAPHを応援し続けてくださった皆様のおかげです。この場をお借りして、感謝申し上げます。次の20年も皆様と共に歩んでいければと思います。

これまでのISAPHを振り返り、皆様への感謝の気持ちをお伝えする場として、オンラインイベントを２つ、オンラインと会場のハイブリッドイベントを１つ開催することにいたしました。ラオスとマラウイの二か国で、ISAPHが何を目的にどのように活動してきたのか、私たちの活動によって現地がどう変わっていったのか、そして皆様からいただいたご支援がどのように現地に裨益しているのかをご報告させていただきます。もちろん、これからISAPHを知りたい方や、ラオス・マラウイに興味がある方も大歓迎です。（お申込みの詳細は、QRコード（ISAPHホームページ）をご参照ください）

また、20周年を祝して、記念誌の発行を予定しております。賛助会員の皆様には次回のニュースレターと共にお送りする予定ですので、楽しみにお待ちください。20歳を迎えたISAPH、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

イベント情報ページ

20th ISAPH Anniversary since 2004

国際協力はじめの一歩

ISAPHマラウイ　**萩原　愛美**

５月からマラウイ事務所で業務調整員をしています、萩原愛美です。私は北海道の大学で看護師と保健師の免許を取得後、病棟に３年間勤務していました。国際協力に関心を持ったきっかけは、タイに住んでいた小学生の時に、同年代の子どもたちが物乞いをしている様子に衝撃を受け、何かできないかとモヤモヤしたことが始まりです。この度、ご縁をいただいて、ISAPHで国際協力の世界に飛び込むことになりました。私は絵を描くことが好きで、本誌では４コマ漫画「新入職員萩原の奮闘記」を担当しています。国際協力初心者である私の驚きや発見を皆様にお伝えできればと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

住民に寄り添う国際協力を目指して

ISAPHラオス　**三浦　夕季**

５月より看護管理専門家としてラオス事務所に着任しました。これまで看護師として病院や船、コンサルタントとしてWHOなどで勤務してきました。この度、現場での仕事へのやりがいと国際保健での専門性を高めたいという思いから、ISAPHで草の根活動に従事させていただきます。住民の健康行動に関する課題を理解し、現地スタッフと協働しながら課題解決に取り組んでまいります。北海道生まれの私には暑くてへたばりそうな毎日ですが、汗だくの私を見ると皆扇風機を向けてくれる、そんな優しさに触れながら過ごしています。ラオスでの生活・活動が実りあるものとなるよう見守っていただけますと、嬉しいです。

決算報告

2023年度収支決算報告

項　目	金　額	内　容
前年度繰越金	19,269,786	
収　入	14,430,512	
収入内訳	904,000	会費
	307,732	寄付金
	4,922,300	助成金・補助金
	7,796,723	事業収益（業務委託等）
	499,757	その他
支　出	14,965,789	
支出内訳	8,319,954	国際協力事業（ラオス）
	117,999	国際協力事業（マラウイ）
	948,899	教育・研修事業
	4,545,484	調査・研究事業
	891,483	管理部門
	141,970	その他（雑費・法人税等）
収支差	△ 535,277	
2023年度末期預金額	18,734,509	

2024年度予算

項　目	金　額	内　容
前年度繰越金	18,734,509	
収　入	11,200,000	
収入内訳	900,000	会費
	300,000	寄付金
	7,200,000	助成金・補助金
	2,500,000	事業収益（業務委託等）
	300,000	その他
支　出	11,840,000	
支出内訳	6,550,000	国際協力事業（ラオス）
	2,190,000	国際協力事業（マラウイ）
	400,000	教育・研修事業
	1,500,000	調査・研究事業
	1,000,000	管理部門
	200,000	その他（雑費・法人税等）
収支差	△ 640,000	
2024年度末期残高	18,094,509	

新入職員　萩原の奮闘記　～お土産編～

マラウイ人にとってあんこ（甘い豆）は受け入れ難いようです。日本人にとって、アジア諸国の砂糖が入った緑茶と似た感覚なのかもしれません。ただし、砂糖衣のピーナッツは現地にあるようで、ピーナッツ餡がどんな反応なのか……次号でレポートします！

編集後記

第48号の各記事が読者の皆様に親しみやすいように、語り口や配置を工夫しました。また記事を見るだけでも活動の進捗を分かってもらえるように、掲載する写真を増やしました。さらに「最近のできごと」に代わり、萩原職員による４コマ漫画の連載を開始しました。これからもISAPHを応援して良かったと思える内容をお届けしてまいります。（安東）

ISAPHの役員名簿

役　職	氏　名	備　　考
理事長	小早川 隆敏	東京女子医科大学　名誉教授
理　事	浦部　大策	医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック　医師
理　事	江藤　秀顕	神山復生病院　病院長
理　事	渡部　和男	元特命全権大使
理　事	足立　基	聖マリア病院 国際協力診療部　部長
理　事	佐々　優子	オリエンタルコンサルタンツ グローバル 部門長
監　事	竹之下 義弘	東京六本木法律特許事務所　弁護士

入会と寄付のお願い

ISAPHの活動を発展させるために、一人でも多くのご入会・ご寄付をお待ちしております。

寄付　いつでも、いくらからでもお受けいたします。

賛助会員　法人 年会費：30,000円　個人 年会費：3,000円

※ご入会の方にはニュースレターをお送りします。
また、オンラインサロンに参加することができます。

【お支払い方法】
●クレジットカード　Syncable でのお支払い
●郵便振込　口座名　特定非営利活動法人ISAPH
口座番号　00180-6-279925

特定非営利活動法人ISAPH

【福岡事務所】
〒830-8543　福岡県久留米市津福本町422番地
聖マリア病院 国際事業部内　TEL.092-621-8611

【東京事務所】
〒105-0004　東京都港区新橋3-5-2　新橋OWKビル3階
TEL.03-3593-0188　FAX.03-3593-0165
E-mail　jimukyoku@isaph.jp　URL　https://isaph.jp/

【ISAPHニュースレター　第48号　編集スタッフ】安東 久雄／石原 潤子

社会医療法人
雪の聖母会
聖マリア病院

理事長：井手 義雄　病院長：谷口 雅彦
〒830-8543　福岡県久留米市津福本町422
TEL.0942-35-3322㈹　FAX.0942-34-3115
URL　http://www.st-mary-med.or.jp

- 厚生労働省臨床研修指定病院
- 厚生労働省歯科臨床研修施設
- 厚生労働省臨床修練病院
- 地域医療支援病院
- 福岡県救命救急センター
- 福岡県総合周産期母子医療センター
- 福岡県救急告示病院
- 福岡県地域災害拠点病院
- 福岡県エイズ治療拠点病院
- 福岡県肝疾患専門医療機関
- 福岡県災害派遣医療チーム指定医療機関
- 福岡県第二種感染症指定医療機関
- 地域がん診療連携拠点病院
- 福岡県小児救急医療電話相談施設
- 福岡県児童虐待防止拠点病院
- 久留米広域小児救急医療支援施設
- 自動車事故対策機構NASVA療護施設
- ISO 9001認証施設
- ISO 15189認定施設
- 日本医療機能評価機構認定施設（一般病院２〈3rdG：Ver.1.1〉）
- 日韓医療技術協力指定病院
- 久留米市病（後）児保育施設

※本ニュースレターの発行は、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院にご協力をいただいています。